

# WING DAILY

## Airline & Aviation E-mail News

発行所 航空新聞社：WING DAILY編集部  
 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-12 サンミヤナガビル 4階  
 TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645  
 URL=<http://jwing.com> E-mail=[mail@jwing.com](mailto:mail@jwing.com)  
 購読料 半年33,600円 年間63,000円(消費税含む)

### 【HEADLINE NEWS】

#### ★スターフライヤーが機体を報道陣に披露 シート間隔91センチ、PC電源/モニター全席装備



今年3月16日に新北九州空港へ就航を予定しているスターフライヤーは16日、報道陣に対して羽田空港において機体内装を初めて披露した。

同社はエアバスのA320型機を使用し、1日12往復を就航する計画で、機体には黒い塗装を施しているのが特徴だ。

今回披露された内装では、シートが全席黒で統一され、壁面が白とシックな落ち着いた雰囲気。スターフライヤーが最もこだわりを見せている黒のレザーシートの座席間隔については91センチと、“快適空間の創出”を謳っているだけに他の航空会社より12センチから15センチ、座席間隔にゆとりを持たせてある。通常170席仕様のところ、ゆとりの空間を創出するために144座席に減らしていることによるもの。また、シートには全席に液晶モニターが装備されており、これはタッチパネル方式で画面に指を触れてチャンネルを選択でき、ムービー(1日3回更新のNHK、BBCなど)は6チャンネル、音楽6チャンネル(クラシック、ヒーリング音楽など)など豊富なコンテンツが備わっている。

さらに、全席にPC電源(携帯電話などの充電も可能)が備えられ、ここに接続しながら仕事をするビジネスマンにも配慮している点も特徴。電源は海外のプラグにも対応できるようになっている。同社がメインターゲットは「ビジネス旅客である」と捉えているための装備だと見られる。その他、フットレストやヘッドレスト、そしてカクテルテーブルなどが備えられており、ヘッドレストは上下にスライドすることも可能。カクテルテーブルは中央の席に旅客がいな



場合に、アームレストを上げて使用することが可能となる。アームレストを上

げた際には、横の空間も広がるため、さらに広い空間が創出され快適性が増す、と説明している。

このほかにも“高級感”を打ち出した戦略として、機内で提供するコーヒーは「タリーズ」のコーヒー、緑茶はサントリーの「伊右衛門」、ビールは麒麟の「一番搾り」を取りそろえた。

同社は米国のLCC、ジェットブルーを参考に今回の戦略を打ち出したと説明しており、1日12往復という“多頻度”とビジネス旅客をターゲットとした“高級感”を強く意識していることが機体内装やサービス内容等からも窺える。現在の北九州空港の需要は年間30万人程度だが、同社は初年度はJALグループも合わせて200万人以上の需要を予測しており、そのうちスターフライヤーだけで124万席(A320×12往復)を提供し、利用率は6割を目指すとしている。現在の北九州空港の需要から急激に増えると予測しているだけに、この同社の戦略によって現在福岡空港や新幹線等に流れている需要をどこまで奪回できるか、興味深いところだ。

※写真=機内全景

※写真=シート

#### ★スターフライヤー、初日予約率は65.8%に 堀社長「将来的には北九州から上海、ソウルも」

きたる3月16日の新北九州空港開港に合わせて就航するスターフライヤーが16日、チケットの予約発売を開始し、さらに制服披露や羽田空港において機体(A320)の内覧会を催した。就航2カ月前となる昨日9時30分から開始された予約販売では、提供座席数2592席のうち、予約数が1707席、予約率が65.8%(16日16時時点)好調な出足となった。就航記念運賃については22時以降の便に若干の空席があるというものの、その他の便では完売となったという。

機体内覧会に先立って品川プリンスホテル(東京・品川)で開かれた記者会見では同社の堀高明社長が会見、機体デザインなどを担当したフラワー・ロボティクス社の松井龍哉社長も同席した。また、同社に先月機体を納入したエアバス社のオペレーションバイスプレジデントのフィリップ・コンペ氏も列席し、祝辞を述べた。

会見の席で堀社長は「我々は今までの航空会社と同じならば、うちの会社は創る必要はないと考え、色々なことに挑戦し、あって良かったなあという航空会社になっていきたい」と語り、今後新たに北九州から国内、上海、ソウルなどの東アジアへの将来的な進出についても意欲を見せた。ただし、少なくとも「2年間は東京-新北九州線に集中する」と述べた。なお、同社は2008年度には現在3機の保有機数を5機へ増機し、上海-北九州線へ1日3往復、2009年度には6機へ増機して上海-ソウル線へ1日4往復就航する計画も今回明らかにした。

同社は大手よりも約2割ほどの安い運賃での運航をすることになっているが、堀社長は同社のコスト削減策についてスキルを保持している社員を配置し、幾つかの仕事を任せると

【航空関連ニュース】

★12年で初のPTB大規模改修、フードコート導入  
関西空港、一つ上のクラス意識し伊料理有名店も



関西国際空港は16日、開港12年で初めて旅客ターミナルビルの大規模リニューアルを行うと発表した。これは、ターミナルビル2階北側

の飲食店エリアを全面改装し、ワンランク上の“フードコートスタイル”を導入するとともに、全体の内外装も京の小町をイメージした「町屋小路(仮称)」に改修する計画で、今年7月に供用開始の予定。周知の通り、2007年に関西空港の二本目の滑走路が供用を開始するが、ターミナルビルは第一ターミナルをそのまま使用することなども考慮して今回のリニューアルに踏み切った。

リニューアルは、旅客ターミナルビル本館2階の北側飲食店エリアの約950平方メートルを対象に全面改装する計画だ。

一つの特徴としては、関空会社は今回初めて「フードコート形式」(テナントが厨房のみを賃借し、客室を全店共有化する)を採用する。郊外型のショッピングセンター等ではよく見られる形式だが、関空会社では「国際空港らしいフードコート」を目指し差別化を図る考えで、関西らしさを加味したワンランク上のメニューを充実させるという。例えば、人気レストランで空港初出店となるイタリアン「アンチェントロ」、クロワッサンが人気商品のベーカリーカフェ「ドミニクドゥーセの店」、料理研究家東條真千子氏がプロデュースするスープ専門店「ディアスープ」、明治43年創業の大阪老舗洋食店で空港初出店となる洋食「えんば自由軒」などが出店する予定だ。

また、このほかにもライトスナック&ドリンクとして、手作りおにぎりの店舗や有名ブランドのデザート店舗、カフェ、カジュアルダイニングとして大阪名物の豚まんを中心とした飲茶店、「大阪食い倒れ横丁」も設ける予定。

近年、中部国際空港や羽田空港のターミナルビルにも見られるように、有名飲食店の誘致が一つの流行となっているが、関空会社でもこれらの誘致によって航空旅客以外の利用者の誘客を図りたい考えだ。

なお、北側飲食店エリアの「551蓬莱」を除く店舗は1月25日に閉店する予定で、2月から7月まで工事が行われる。7月中旬にオープン予定だ。南側を改修する計画は現時点ではないとしている。

※=リニューアル後の「町屋小路」のイメージ

★大臣、ミネタ長官へ「成田の米スロット改善課題」  
二者間会談で、中国とは日中関係重要では一致

北側一雄国土交通大臣は13日、国際交通セキュリティ大臣会合の開催に伴い出席した4ヶ国と1国際機関の首脳と会談した。大臣が会談したのはシンガポール運輸大臣、中国の民用航空総局長、国際海事機関事務局長、インドネシア運輸大

とによって人員を削減すること、外注化可能なことは外注化する、さらに航空機の運航時間を大手の約1.5倍となる4000時間飛ばすことでシート当たりの採算性を上げることなどの施策を講じる方針を示した。さらに「1機あたり4往復して稼働率をあげることでコストを下げることも計画している」と語った。

また、堀社長は「感動のある航空会社になりたい」、ということを理念とし、同社の4つのモットーを掲げた。第1のモットーは“もっと便利に”で、これは早朝から深夜まで運航し、ビジネス・遊びの活動時間の幅を広げる。コスト削減に励み、大手より安い運賃で提供するというもの。第2のモットーは“もっと快適”で、同社によると75%の航空旅客が感じている座席間隔の狭さを解消するため、シート間隔を広げることで快適空間を創出すること。第3のモットーは“もっと優しく”とし、これはひとと環境に優しく、を第一に掲げ、最上級のホスピタリティで旅客をもてなす、としている。そして最後の4つ目のモットーが“もっと挑戦”で、これは上述の座席間隔を広げる、北九州から東アジアを目指すといったことにこれからもチャレンジしていくこととした。

会見に駆けつけたエアバス社のフィリップ・コンペ氏は「日本で新たにエアバス機のオペレーターとなったことを嬉しく思う。特にスターフライヤーはエアバス・ジャパンが株式会社として2001年に発足してから初めてオペレーターとなった航空会社で、その喜びもひとしお。スターフライヤーは本当の意味で日本に登場する初めてのLCC。同社が日本の空に新たな業界標準を確立するのは間違いない」と祝辞を述べた。

機体のデザインなどを担当した松井氏は予約開始を受けて「いよいよ実際に本格的にお客様とコミュニケーションが始まる重要な日。デザインに係わった重要な意味がこれからみえてくる」と語った。スターフライヤーはデザインを戦略的に取り込むという手法で、進んできたが一企業をデザインしてきたことに松井氏は「非常にエキサイティングなことだった」と振り返った。

女性CAの制服もパンツスーツに  
白と黒のシャープなデザインに



また、会見の席で同社の制服も初披露された。制服のデザインを担当したのはデザイナーの森岡弘氏。最終的監修は松井氏が行った。

パイロット、客室乗務員ともに同社のイメージともなっている白と黒のシャープでスタイリッシュなデザインとなっている。特に女性客室乗務員の制服についても、スカートではなくパンツ・スーツとなっている点に注目が集まった。

※写真=制服

臣、米国運輸長官の4者。

そのうちアメリカのノーマン・ミネタ運輸長官との会談では、技術・管制・ICAOなど幅広い分野についての意見交換が行われたが、その中でミネタ長官は98MOU(98年に両国が交わした覚書)の進展、つまりオープンスカイについて協議を進めるよう呼びかけた。これに対し、北側大臣は協議は双方に意味のあるものでなければならないとし、現状では成田空港でアメリカが使用しているスポットはアメリカに有利な状況にあり、この改善が最重要な課題である、との意向を示したという。なお、今後の交渉の開催予定時期についての言及はなかったもようで、昨年4月に長官が訪日した時の協議の内容と大きく変わらない内容だったようだ。

一方、同じく注目されている中国の民用航空総局長との会談では、一般論として日中関係が大事であり、過去3回開催しながら妥結に至らなかった航空交渉をまとめる必要がある、との認識で一致した。ただ、今後の交渉開催予定についての言及もなかったという。20分間という短い時間だったこともあって、表敬の意味合いが強い会談となったようだ。

なお、日中航空交渉は昨年1月、6月にも協議を行ったが、日本側が上海空港の枠の拡大等を要望したのに対し、中国側は成田空港の増便と羽田空港への乗り入れを要望、これは日本側は受けられないとして、中国へ再考を求めている状況。次の交渉の日程は現時点では未定だ。

#### ★日中政策対話W/G、今年2～3月頃に開催予定 — 東京大学も参画、物流などでの協力検討

昨年9月、日中間で航空交渉とは別に、航空の幅広い分野について副大臣級で意見・情報交換を行う日中政策対話が開催されたが、そこでの合意を受けて今年2～3月にワーキンググループ会合が開かれる予定だ。ワーキンググループには日中の航空当局のほか、研究機関として東京大学公共政策大学院が参画する予定。なお、これを睨んで中国民用航空総局の楊元元局長は東京大学公共政策大学院の森田朗院長と12日に会談し、協力することを確認した。

前回9月の政策対話では、物流・統計等の分野で両国が協力していく、との認識で一致したため、今回のワーキンググループではこれを受けてどう進めていくかも含めて検討していくことになる見通し。

この政策対話は今年も開催される予定で、継続的に日中間の航空分野の課題について幅広く協議していくこととしている。

#### ★JAL-G、06年度上期の国内線割引運賃を届け出 — 燃油高騰で割引運賃も値上げ、Bフェアなど維持

JALグループが16日国土交通省に届け出た上期の国内線各種割引運賃によると、燃油価格の高騰を受けて普通運賃と同様、割引運賃についても、バーゲンフェアなど割安の運賃種別を残しつつ値上げを実施する。JALによると、2006年度は2005年度と比べて400～500億円程度、燃油費用が上昇する見通しで(05年度は3800億円程度見込み)、普通運賃と今回届け出た各種割引運賃の値上げにより300億円程度の値上げ効果が見込まれるとしている。

具体的には、大人普通運賃、往復割引、回数券などについては現在の燃油特別付加運賃を廃止し、相当額を組み込んだ

上で路線距離別に運賃値上げを行う予定。値上げ幅は500円～1300円で、例えば羽田—札幌線などの800キロ～1000キロ未満は1100円、羽田—那覇線など1000キロ以上は1300円など値上げする。

また、これ以外の割引運賃については、バーゲンフェアはバーゲンフェアは4～6月まで各月10日間、合計30日間で来年度上期も引き続き設定するが、1000円を値上げ、これにより羽田—沖縄線は1万3300円などになる。バースデー割引は700～800円を値上げし、路線毎に7000円～1万3000円で設定。さらに今回搭乗日の28日前までに予約・購入すればお得に旅行できる「特便割引28」を一部期間、路線を除いて毎日、便毎に設定することとした。

このほか、「おともdeマイル」「eチケットレス割引」も設定。回数券については2月1日発券分から4回数券、10回数券の有効期間を30日間延長、「平日シルバー割引」は土日祝日も利用できるよう、名称を「シルバー割引」に、「身体障害者割引」は割引率を約36%引きに統一するなどの措置を講じた。

#### ★JAL-G、国際線燃油サーチャージ再値上げ発表

JALグループは16日、燃油特別付加運賃(燃油サーチャージ)を改定すると発表した。同日国土交通省へも申請した。

それによると、同社は3月1日発券分から韓国・福岡—上海は現行の700円から1300円に、中国(福岡—上海以外の2000キロ未満)は1300円から2700円に、香港は1200円から3900円に、フィリピン・台湾・グアム・ベトナム・中国(2000キロを超える路線)は1300円から3900円へ、タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・インドは3600円を6500円へ、太平洋・欧州・中東・オセアニアは5000円を8000円へ、ブラジルは5000円を1万1500円へ値上げする。

なお、同社はシンガポールケロシン市況価格が1ヶ月連続で1バレルあたり65ドルを下回った場合には運賃を引き下げ、更に40ドルを下回った場合には本運賃を廃止するとしている。

#### ★日本・オーストラリア航空当局間の協議が開催へ — 18日からキャンベラで

国土交通省は18、19日の両日、日本とオーストラリアの航空当局間協議が開催されると発表した。今回の協議では輸送力等について協議される予定で、日本側からは志村格航空局国際航空課長、オーストラリア側はラムズデン交通・地域サービス省航空マーケット部長代理ほかが出席する予定だ。

#### ★関空12月速報、航空旅客数は7%増加に — 国際線は2%減、国内線は32%増

関西国際空港株式会社が16日発表した12月の空港運営概況(速報値)によると、航空旅客数は対前年同月比7%増の131万104人と大幅に増加した。これは伊丹空港からの路線シフトに伴い国内線旅客数が増えていることが大きく、国内線旅客数は同32%増の41万1204人、国際線は同2%減の89万8900人と対照的な結果となった。

発着回数は全体では同9%増の9406回、うち国際線は同2%減の6043回、内訳は旅客便が同2%減の4823回、貨物便は同

2%増の1097回、その他が同28%減の123回と、貨物便はプラスとなった。国内線は全体で同34%増の3363回、うち旅客便が同35%増の3228回、その他が同12%増の135回となった。

**★安全マネジメント態勢構築検討会、骨子案を議論  
次回2月に骨子取りまとめ、最終まとめは5月**

国土交通省は13日、第2回運輸安全マネジメント態勢構築に係るガイドライン等検討会を開催した。これは、航空会社関係者なども加わり今年度中の導入を予定している事業者の安全マネジメント態勢の構築と国の安全マネジメント評価について事業者の態勢構築に必要なガイドライン等の検討を行うことを目的に、政策統括官の私的懇談会として設置されたもの。すでに第1回検討会は、さる12月2日に開かれており、第3回は2月3日に骨子をまとめ、3月下旬にその検討を行い、5月上旬にガイドライン案を取りまとめることにしている。座長は一橋大学長の杉山武彦氏で、航空関連では航空局技術部運航課長の宮下徹氏のほか、ANAの大前傑代表取締役副社長、JALの松本武徳常務取締役、航空輸送技術研究センター常務理事の十亀 洋氏も委員に名を連ねている。

この検討会は、事業者の安全マネジメントの構築と国における運輸安全マネジメント評価システムは来年度中に導入を予定しているため、事業者の安全態勢構築のためのガイドライン等の検討を目的としているもの。すでに、公共交通ニューマンエラー防止対策検討委員会の中とりまとめでは、事業者はトップから現場まで一丸となった安全マネジメントの構築とその態勢を国が確認する仕組みを導入など新たな具体的な方向性が示されているため、安全管理規定の見直し項目を検討するもの。今後目指す安全マネジメントとしては、経営トップから現場までの安全意識の徹底、向上、組織の安全文化、安全風土の構築、経営のトップリーダーシップの発揮、トップと現場との双方向コミュニケーションの確保及び安全上の課題の掌握とその改善措置などが挙げられている。これに対して国は、事業者の取組みを重視するため内部監査の実施、自主性を盛り込んだマネジメント態勢の構築維持、マネジメント態勢構築に関し一定の手順・手法への準拠をもとめる。また各モード(陸海空)の事業法を改正し、安全管理規定の政策と安全統括管理者の選任の義務化を図る。そして国が事業者の安全マネジメントを評価するため、事業者の手順などチェック、また経営トップへのインタビューチェック等を実施することとしている。

また事業者の運輸安全確保での新組織として、大臣官房に運輸安全政策審議官、運輸安全管理官の下に運輸安全調査官20人が新規に認められ、18年10月に発足する。組織の業務は、運輸安全の基本的政策の企画立案、中長期ビジョンの策定、年次報告の作成、運輸安全マネジメント評価の実施し、原局の航空、鉄道、自動車、海運と協調しながら監査も行う。

**★トラブル防止策の再提出を求める  
航空局、日航グループに**

航空局は日本航空グループに対してさる12月から類似の機材トラブルが目立ち、再発防止での対策を1月末までに提出するよう行政指示を行った。今回はグループ全体として改めて

対策を講じるよう命じたもの。最近の事例として、日本アジア航空が成田-台北線で緊急脱出装置が作動しないままで運航した事例や、JALが大阪-鹿児島線で逆噴射装置が作動しないなど事故には繋がらないものの事例が発生したため、再発防止での対策を再び求めた。

**★06年FIBAバスケットボール世界選手権スポンサーに  
JAL、アジアでは28年ぶりに8月から開催**

JALは13日、2006年FIBAバスケットボール世界選手権組織委員会とエアラインカテゴリースポンサー契約に関して合意に至り、大会メインスポンサーに決定したと発表した。メインスポンサーとして選手団、大会関係者の輸送と大会プロモーション活動に協力する予定。

「2006年FIBAバスケットボール世界選手権」大会は、8月19日～9月3日までの日程で日本各地で開催される予定。FIBA(国際バスケットボール連盟)に加盟する212の国と地域の中から男子バスケットボールの世界一を決定する世界最高峰の大会で、4年に1度、オリンピックの中間年に開催されている。アジアでは1978年にマニラで開催されて以来28年ぶり2回目の開催となる。

**★ANA若狭顧問「お別れの会」2月1日に開催**

ANAの顧問(元名誉会長)で昨年12月27日に91才で逝去した若狭得治氏の「お別れの会」がきたる2月1日午後3時～午後4時まで、東京全日空ホテル地下一階プロミネンスで開催される。

すでに通夜、葬儀は近親者のみで済ませたとしている。

**★神戸空港就航都市で神戸空港・観光をPR  
神戸市、全国7都市で物産展など**

神戸市は1月10日から神戸空港就航までの間、各就航都市での物産展やイベントでのPR等を行っている。これまでも昨年からのセミナーの開催や旅行会社への商品造成の働きかけなどを進めてきたが、更に開港に向けてアピールを強める。

まず鹿児島では1月10日～16日までの間、百貨店の山形屋で神戸物産展を開催。那覇では15日に沖縄花のカーニバル2006プレPRフェスタでPRを行った。札幌では21日にJR札幌駅西コンコースで街頭での観光PR、熊本では25日～31日まで百貨店の鶴屋で神戸物産展を開催。東京では2月6日～7日まで主要駅前等で街頭での観光PR、新潟では2月11日～12日までの間、2006にいがた冬・食の陣古町会場でのPR、仙台では2月16日から21日までの間、百貨店の藤崎で神戸物産展などを開催する予定としている。

なお、各都市でのPRの前日にはスマイル神戸が地元新聞社などを訪問する予定だ。

**★中部会社、事務系/技術系総合職を若干名募集**

中部国際空港は新卒者を対象に社員を募集している。事務系総合職(総務、経理、営業など)と技術系総合職(無線、建築)をそれぞれ若干名募集する。4年制大学を卒業見込みで、2007年4月2日の年齢が25才未満、または大学院(修士課程)を修了見込みで、2007年4月2日時点での年齢が27才未満

の人が対象。応募締め切りは3月10日。

なお、同社は2005年度は事務系総合職を6名、2004年度は7名、2003年度は5名を採用した。詳細は同社ホームページ [http://www.cjiac.co.jp/recruit/shinsotu.html] まで。

### 【海外メーカーニュース】

#### ★エンブラエル、05年は141機をデリバリー エンブラエル170が46機、来年は145機納入予定

エンブラエルが13日発表した同社の第4四半期及び2005年通年のデリバリーによると、2005年通年では141機を納入した。このうち航空会社向けでは120機を納入した。このうち46機と最も納入数が多かったのはERJ145とエンブラエル170型機の二機種で、エンブラエル175型機も14機、エンブラエル190型機も12機を納入した。このほかERJ135型機は2機を納入している。

ビジネスジェット市場では合計14機を納入し、これは全てレガシーとなる。一方、防衛市場ではEMB145型機を1機、レガシーを1機納入した。

なお、会社によると、エンブラエル190型機の2機は当初12月の納入を予定していたが、1月初旬に変更となり、またエンブラエル170型機2機は国営航空会社に販売されたが、納入時期が2006年に変更された。

エンブラエルは2006年は通年で145機を納入する計画で、2007年は150機との予測を据え置いている。

これまで同社が確定受注した数は1334機、うちERJ145ファミリーは894機、エンブラエル170/190ファミリーは440機、またオプションでの受注は合計541機。納入は967機となっている。会社によると、受注残は104億ドル、367機で、うちERJ145ファミリーは45機、エンブラエル170/190ファミリーは322機となっている。

### 【海外エアラインニュース】

#### ★東方航空、2月6日発券分より燃油サーチャージ

中国東方航空 (CES) は、2月6日発券分より燃油サーチャージの徴収を開始すると発表した (政府認可条件)。サーチャージ額は日本発着国際線1区間あたり12米ドルで、福岡、長崎、鹿児島、広島、松山、大分、沖縄—上海線及び福岡—青島線は1区間7米ドル。

### 【旅行関連ニュース】

#### ★プライベートジェット観光付ハワイ旅行当たる HIS「GO! GO! 春キャンペーン」で各種割引も

エイチ・アイ・エス (HIS) 関東営業本部は、1月14日～4月30日の期間中、豪華ハワイ旅行が当たる「GO! GO! 春キャンペーン」を展開する。期間中は、海外パッケージツアーの「Ciao」や海外航空券の割引も行う。

同キャンペーンでは、昨年に続きHISのキャラクターに採用された北海道日本ハムファイターズの新庄剛志選手による「キャプテン“SHINJO”プレゼント」として、プライベートジェットで観光するプランが付いた豪華ハワイ旅行をプレ

ゼントするオープンキャンペーンを実施する。

応募受付は同社ホームページ上 (http://www.his-j.com/tyo/fair/2006spring/pj.htm) で実施。「プライベートジェットで巡る選べるアイランド観光付 ビジネスクラス利用ハワイ6日間の旅」を抽選で1組4名にプレゼントする。

また、昨年10月に3名で旅行する場合に1名分の料金を半額にするキャンペーンを行ったところ、好評だったことから、今回は家族旅行も対象に加え、さらなる需要喚起を行う。対象となるのは、「Ciao」または海外航空券の成約者で、関東営業本部内の全店舗で実施する。

具体的には、(1)ソウルやハワイなど25方面以上で、3人揃えば3人目が最大半額、(2)ハワイやグアムなど10方面40コース以上で、お子様代金最大半額、(3)2・3月出発の航空会社指定の海外航空券を1月中に成約すると、3人揃えば1人最大3000円割引——の3つの割引を実施する。

#### ★中部発の訪日外国人向け旅行商品を企画 JTBグローバル、JR東海、中部空港共同

JTBグローバルマーケティング&トラベルは、今年1月20日～2月20日の一ヶ月間にわたり開催される、「Yokoso! Japan Weeks(YJW)」に合わせ、訪日外国人向け旅行商品を企画した。同商品は、東海旅客鉄道 (JR東海) および中部国際空港と共同で企画、中部空港を発着とし、名古屋から新幹線を利用して、京都・東京・高山・静岡などに宿泊する。

コースは3日間～5日間の全5コースを設定、各コースとも名古屋市内の産業観光が組み込まれている。ツアー中は中国語と英語双方のガイド付きで催行する。価格は名古屋市内の宿泊抜ききの料金が、大人4900円～5万4900円。名古屋市内の宿泊料込みの価格は、大人19万9000円～7万7400円とした。

#### ★はとバス、外国人向けツアーを拡充強化 中国語で案内する温泉ツアー、谷中ウォークも

はとバスは、2006年1～5月の定期観光バスツアーを発売したが、集客が好調な外国人向けツアーを強化し、英語および中国語で対応する新コースを追加、インバウンドの取込をさらに強化する。今年のテーマは、“ゆったり・快適 東京観光”。食事施設や内容の見直しを図るなど、商品内容を拡充し、全105コースをラインナップした。

まず、食事内容の見直しの一環で、国内最大級の登録店舗数を誇る「ぐるなび」との共同企画を初設定し、隠れた都内の名店へ案内する。今回は、西麻布の「ルメイユール」と、二子玉川の「ラマージュイグレク」の2つのフレンチレストランを設定、旧朝香宮邸や旧前田侯爵邸、東京都庭園美術館等の見学を組み合わせて、大人の女性に向けた贅沢なひとときを提供する。

インバウンド向けのツアーでは、国家資格を持った日本人中国語通訳ガイドが案内するツアーに郊外コースを追加。人気の高い富士山や栃木県・那須温泉の雪見露天風呂で、この時期ならではの日本の“冬”を感じられるツアーを設定した。例えば、中国語で案内する「富士山・山中湖温泉」が大人7500円、子供7000円 (食事付)。また、バスを一切使わずに地下鉄や徒歩で見学するコースを計4コースに拡充。新コースの英語で案内する「谷中ウォーキングツアー」が大人3500円、子供2500円 (食事付)。